中部版

名古屋支社
〒464-0074
名古屋市千種区仲田2-15-12
ワークビル3階
電　話・052(735)6556
ＦＡＸ・052(735)6557

植松

定尺横葺きの金属屋根

新製品を販売

専用の成形ライン新設

省施工のニーズ対応強化

導入した成形ライン

植松の新製品「UMルーフ1」のカタログ

静岡地区鉄鋼二三次製品流通大手の植松（本社・静岡県沼津市、社長・植松孝康氏）は、金属屋根の潜在需要開拓を強化する。戦略製品として、今月より定尺横葺き金属屋根「UMルーフ1（ONE）」の本格販売を開始。本社工場に約5千万円を投じて、新製品専用成形ラインを導入した。同社が自社商品として定尺品を販売するのは初めて。現場施工性の良さなど定尺品が有する特長をアピールし、薄板金属建材の販売増を狙う。

金属屋根の施工は歩留まりを考慮し、製品長さ5㍍以上に及ぶ長尺で成形するケースが多いが、最近は一人親方など人手不足の顕在化により、施工業者は省施工が図れる定尺品を求めるケースが増えている。定尺品であれば、少人数、狭小地での搬送作業でも現場スタッフへの負担軽減が図れ、施工効率のアップが見込める。同社では、こうしたニーズに着眼し、金属屋根製品の更なる拡販を目指すため、新製品の投入を決めた。

新製品「UMルーフ1」は標準製品長さ3638㍉（オプションで同1820㍉も可能）。対応板厚は0・35㍉、働き幅は業界最大の275㍉。母材にJFE鋼板が、このほど投入したばかりの6価クロムを含まない高耐食性カラー鋼板で、15年塗膜長期保証の「Jクラフト極みーMAX」を採用した。標準色は黒（ジェットブラック）、銀黒（シルバーブラック）、茶（ダークブラウン）。表面形状は木肌風のエンボス加工で、ポリエチレンフォーム4㍉の断熱裏貼りが標準。アヤメ折り（Z形状の加工）のあり、なしの2種類をラインナップ。長さ方向の端部は通常、継ぎ手を用いて施工するが、同社の新製品は端部の特殊加工により、継ぎ手を用いない重ね葺き工法のため、部材点数、コストの削減と工期短縮に寄与できる。

新製品販売に伴い導入した成型ラインは、エンボス・レベラー加工機、隅切切断装置、アヤメ折り装置、ラミネーター（断熱材接着装置）、梱包機などが付随したもので、エンボス加工から成形、断熱材の裏貼りまで自動生産する。同時に新製品専用の板金役物（軒先唐草）の成形機も新設した。

同社は住宅、非住宅向けに鉄鋼二次製品の販売や成形加工を手掛けており、静岡県東部地区メーンに、静岡県中心部および神奈川県西部、山梨県南部を主な営業エリアとしている。グループ会社に、屋根・外装建材施工、住設機器販売・設置などを行う植松建興（本社、社長とも同じ）を擁しており、昨年より個人向け住宅リフォーム事業に参入。金属屋根製品の拡販に一層注力している。

東海地区の車向け鋼材

来年1月以降、回復顕著に

トヨタ、1万4000台（日当たり）の高水準

トヨタ自動車などが1～3月期は逆に高い生産レベルになると見込まれ、徐々に上向きの見通しになってきた。価格面でも大きな変化は見込まれず、コイルセンターや鋼管扱い筋、各種加工段階では人手不足の問題は継続するが、仕事量や採算面では大きな変動のない状況が続きそうだ。

地区最大手需要家のトヨタ自動車は、8～10月の国内自動車生産計画（完成車）をサプライヤーなどに通知もほぼ完了すると見て、同1万3千台程度の水準とする計画。当初生産を増やす予定だったプリウスPHVは生産時期がずれることになったものの、シエンタやアルファードなども引き続き生産を継続するが、10月は熊本地震などの挽回生産ペースを続ける。これは当初の年間計画に示された生産レベルへと戻す格好になる。

いったん生産水準がダウンするように見えるが、短い期的な動きになりそう。年間計画だ。

さらに、大きな変動に揺れる三菱系も、9月以降、パジェロなどに増産計画が出ている。主に輸出向けという。岡崎工場の今後については様々な見通しが市場感が続きそう。

ローダウンする。12月まで超す水準を計画しており、販売台数も増やしていく計引いているが、新型車投入なども予定されているため、生産レベルは現状を底に上向いてくる可能性が指摘される。

このため、東海地区コイルセンターなどは比較的堅調な生産レベルを維持する可能性が高い。店売り主力の扱い筋では格差もみられそうだが、トヨタ関連の仕事が中心の扱い筋では10～12月期にスローダウンするも繁忙

東海CC工業会

6月のコイル鋼板流通調査

入出荷とも大幅増

東海コイルセンター工業会（会長・小河通治小河商店社長）がまとめた、6月のコイル・鋼板流通調査によれば、地震や事故によるマイナス要因からの挽回や稼働日数増などにより、入出荷は自販・受託ともに大幅に増加し、在庫は漸減した。加工量も同様に前月比では大幅に増加した。

自販分は、価格面の状況が読みにくいため、一部に慎重姿勢もみられたが、総じて入出荷とも堅調。前月比ではいずれも1割を超す増加に。月末在庫は同2％程度減少した。

受託分も同様の傾向になったが、入出荷ともに伸びは大きかった。稼働日数の関係のほか、熊本地震の影響で自動車生産などにマイナス要素もあった前月までとは異なり、大きくプラスに転じた。

この傾向は、加工量にも大きく出た。各加工形態ともに前月比では1割を超す、特に同2割を超った。足元は堅調。9月の傾向は続く

東海地区のコイル・鋼板流通量調査

（2016年6月末、単位：トン、％）

			前月比増減
自社販売	荷量	107,874	11.7
	入荷量	110,660	14.9
	出荷量	126,505	▼2.1
	月末在庫		
受託加工	荷量	277,337	19.6
	入荷量	280,507	24.7
	出荷量	228,120	▼1.3
	月末在庫		
合計	荷量	385,211	17.3
	入荷量	391,167	21.8

挨拶する松下社長

中部経産局